

認知症カフェの開設に 向けた実証研究 — 成果報告 —

平成27年11月6日

県立広島大学保健福祉学部
西田 征治

1. 背景（研究動機）

- ✚ 認知症高齢者が地域の住み慣れた良い環境で暮らし続けることができる社会づくりが推進されている
- ✚ 在宅認知症者の地域ケア研究を進める中で、認知症の人とその家族が集い交流を図る場が十分になかった
- ✚ 若年性認知症の人と家族の中には社会的孤立状態にある人たちもいた
- ✚ オレンジプランでは認知症カフェの設置が推奨されていたが、まだ三原市に認知症カフェが設置されていなかった
- ✚ 三原市にどのような認知症カフェが好ましいか明確でなく、開設や運営のノウハウがない

2. 研究目的

**市街地に認知症の人とその家族が集い、
悩みや思いを共有したり、専門家に
相談したりする場（認知症カフェ）を
開設する**

認知症カフェとは

認知症の人とその家族・友人，医療やケアの専門職，そして認知症について気になる人が気軽に集まり，和やかな雰囲気のもと交流を楽しむ場所。



3. 実施内容

1. 開設準備
2. 先進的取り組み施設の視察
3. 講演会
4. 意義や効果の検討（成果）

3-1. 開催準備

平成26年

7月 会議開催（高齢者福祉課，5つ地域包括，県立大学）
市内3か所（東部，北部，南部）での開催を目指す

8月 準備会議，必要物品購入，広報

9月 東部地区に開設（東部・中央・南部地域包括）
三原病院社会生活支援棟，毎月第1金曜日

10月 西部地区に開設（西部地域包括）
グループホーム梅菅園，毎月第4木曜日

11月 北部地区に開設（北部地域包括）
久井保健福祉センター，毎月第2火曜日

東部の認知症カフェ

名称：はるのんかふえ

日時：毎月第1金曜日 13:30～15:30

場所：三原病院社会生活支援棟

運営：東部・中央・南部地域包括，県立大学教員と学生

対象：75歳未満で認知症の診断をもつ人とその家族

内容：挨拶，自己紹介，喫茶，レク，交流



東部の認知症カフェ



学生による音楽活動



調理活動



家族同士の交流



薬剤師の相談

3-2. 視察

視察者：5つの地域包括，県立大学

① Rose榎島（宇治市）

運営：宇治市福祉サービス公社，地域包括と作業療法士，月1回1時間半

内容：医師と当事者の大会参加報告，生演奏（歌手），
カフェタイム

感想：当事者が認知症だと発信するためには周囲の理解
と発信した後のサポートが重要（医師の助言）



② コミュニティカフェ工房「ひのぼっこ」（京都市）

運営：社会福祉法人同和園，地域包括と作業療法士，月1回2時間

内容：ミニ講義，生演奏，カフェタイム

感想：会場がカフェテリアで落ち着く雰囲気。ケーキは
シェフ手作り。音楽ボランティアとのマッチング
システムがある。地域包括がマネジメントしている。
参加者が認知症であることをオープンにしている。



3-2. 視察

③デイケアあしやぎ（北中城）

運営：若松病院，ボランティア作業療法士，月1回10時～16時

内容：ミニ講義，活動・仕事と交流

感想：誰でも自由参加．認知症の人と家族の会と連携して運営．若年性の当事者が有償ボランティアとして働く．家族同士がゆっくり交流できる．奨学金，自立支援医療など制度情報を積極的に提供していた．



④西小倉地域福祉センター（宇治市）

運営：宇治市福祉サービス公社，年4回

内容：ミニ講義，生演奏，カフェ

感想：当事者と家族，地区役員や一般市民100名弱が参加し地域づくりに寄与している．医師の援助のもと当事者が診断後の生活について語る．カップや菓子包装がお洒落



3-3 講演会

期日：平成27年2月21日（土）

目的：認知症の人を支える意欲のある人たちに対して、認知症の人を中心に
心においたケア（パーソン・センタード・ケア）についての知識を
提供するとともに、現在三原市で取り組んでいる認知症カフェの啓
発を行い、その支援意欲の醸成をはかる。

内容：

- ① **村田康子（NPOその人を中心とした認知症ケア考える会代表）**
地域で認知症の人とともに暮らし続ける
—パーソン・センタード・ケアの視点を生かして—
- ② **片江敏之（東部地域包括支援センター）**
三原市認知症カフェの取り組み紹介

参加：やすらぎ支援員，認知症の人や家族，一般市民，
保健医療福祉専門職，学生など90名程度



4. 成果

1. 市内3か所に認知症カフェが開設された

① **東部地区**（東部・中央・南部地域包括）

三原病院生活支援棟，毎月第1金曜日

② **西部地区**に開設（西部地域包括）

グループホーム梅菅園，毎月第4木曜日

③ **北部地区**に開設（北部包括）

久井保健福祉センター，毎月第2火曜日



平成27年6月以降，市内5か所に発展

4. 成果

平成27年6月以降，市内5箇所開設

北部地域包括
保健福祉センター
(月1回)



東部地域包括
はるのんCafé
(月1回)



南部地域包括
くすのき・めぐみ苑
(月1回)



西部地域包括
グループホーム
梅菅園
(月1回)



中央地域包括
医師会病院
(月1回)



4. 成果

東部（はるのんカフェ）



- カフェを貸し切って開催
- 本格的カフェと洋菓子
- 認知症の人と家族と一緒に楽しむ場
- 認知症の人と家族の会と協働
- カフェオーナーから市民目線の意見

- 生演奏
- 中等度の人も参加

4. 成果

中央（医師会病院）



- 軽度～認知症が気になる人も対象
- ミニ講義に注力（予防，脳活性化リハ，口腔衛生など）
- ボランティア（手品，音楽，園児）を活用
- 本人と家族の相談に応じ不安を軽減することが大きな役割
- ケアマネと連携取りマネジメント機能をもつ
- 認知症（MCI）の人が企画に参画している

4. 成果

南部（くすのき・めぐみ苑）



- 認知症の人と家族の交流
- 現在は家族支援が中心
- 講義，音楽鑑賞，カフェタイムで構成
- 市民ボランティアの育成

4. 成果 意義や効果

対象：東部認知症カフェ（三原病院）継続参加の家族3名

方法：平成27年3月，個別に心境や生活変化を聴取

結果：

項目	語り, 内容
家族 ① 社会的孤立の解消 ② 心境の変化 ③ 本人の良い所を見る場 ④ 知識の獲得 ⑤ 関わり方の変化	行くところがあった 心に余裕ができた, 介護意欲がわいた ここでは笑顔がみられる 症状理解や介護方法 関わり方が穏やかになる
本人 ① 生き生きと過ごせる場 ② 対人交流の抵抗感の軽減 ③ デイサービスの受け入れ	ここでは声を出して笑う 人と関わることに慣れてきた デイサービスに行ってくれる

4. 成果

3. 三原市を認知症地域ケアの先進地として アピールできた

岡山市の診療所から視察に2回来た。

東部（はるのんカフェ）

中央（医師会病院）

5. 今後の課題

- 市民への広報活動
- 音楽ボランティアとのマッチングシステム
- 市民サポーターの育成
- 民間の活用
- 認知症の人が発言できる地域づくり
(認知症の人を理解する啓発活動)
- ホームページでの活動アピール